

# メンタルフレンドの継続的活動、養成に関するインタビュー調査

ボランティアによる明確な目標を持たない訪問を通じた不登校児者支援の特徴について

松浦淳<sup>1</sup> 泉山靖人<sup>2</sup> 熊井正之<sup>2</sup> (青森中央短期大学幼児保育学科・東北大学大学院教育情報学教育部)<sup>1</sup> (東北大学大学院教育情報学教育部)<sup>2</sup>

## ■序論

### ○メンタルフレンドとは

不登校児者(以下、本人)への年長者による定期的・個別訪問厚労省「ふれあい心の友派遣事業」→全国の児童相談所に展開引きこもり対応に有効との報告(市根井ら,1999;栗田,2009)ほか

例:孤立感・悲壮感の解消、権威的上下関係のない交流、年齢が近い他者との共通理解、モデル獲得…など

### ○現状(栗田,2015)

この10年で児童相談所での事業規模が縮小傾向  
大学、フリースクール、NPOによる継続的活動、活動形態の多様化

### ○課題

「どのような活動が続いているのか?」 →支援方法は?  
「どのようにして人材を育てているのか?」 →養成方法は?

### ○目的

メンタルフレンドの継続的活動を可能にしている  
支援方法、養成方法について、具体例をもとにその特徴を明らかにする

## ■方法

### ○調査期間:平成24年7月~9月

### ○調査対象

下記条件を満たす、縁故法で抽出し同意を得た7名  
条件Ⅰ:3年以上メンタルフレンドとして活動している支援者(以下、メンタルフレンド)  
条件Ⅱ:3年以上メンタルフレンド養成に従事している支援者(以下、養成者)

### ○調査方法:録音を伴う半構造化インタビュー(60~90分)

※原則的に対面でのインタビューを行ない、対面でのインタビューが困難な場合のみ電話でのインタビューを実施

### ○質問方法:クリティカル・インシデント法

→印象的なエピソードを中心に想起、具体的に語ることを重視  
→インタビュー内容には活動、養成に関する話題が混在

### ○分析対象

筆者作成の全発話のトランスクリプトを各対象者に送付、内容について訂正・確認を得たもの

### ○分析1:支援方法の特徴

- 1.メンタルフレンドと本人とのかわり、留意点、目的、原則に該当する発話を筆者が抽出、分割、断片化
- 2.支援方法を形成する要素という水準で類似する断片同士をまとめ、サブカテゴリーを生成
- 3.支援方法を特徴づける事柄という水準で類似するサブカテゴリー同士をまとめ、カテゴリーを生成→各カテゴリーの内容を代表するキーワードによる概念化
- 4.概念間の関係性について検討

### ○分析2:養成方法の特徴 ※原則として1.と同様の手順

- 1.メンタルフレンドの養成の具体的方法、留意点、方針に該当する発話を抽出、分割、断片化
- 2.養成方法を形成する要素という水準でサブカテゴリーを生成
- 3.養成方法を特徴づける事柄という水準でカテゴリーを生成
- 4.概念間の関係性について検討

## ■結果

### ○支援方法の特徴(図1)

- 1.有期限・有目的の活動との違い、無目的・無期限、続くことを重視  
→無目的・無期限・定期的な訪問:緩やかな枠組みの中での活動
- 2.二人の世界を作りやすくする、表現したいことを表現する  
→自由な活動内容を保障、本人の主体性を重視
- 3.活動への理解が前提、本人の世界に入り込む  
→本人の前からの居場所「ホーム」に入って行く活動
- 4.本人とメンタルフレンドがお互いを重ね合う  
→斜めの関係性を通じた他者理解と自己理解の連環
- 5.活動が支援では無くなることも受け入れる  
→既存の支援の枠組みとは異なる視点の関係構築

### ○養成方法の特徴(図2)

- 1.活動を通じた変化を無条件に認める養成方針  
→メンタルフレンドの主体性を重視
  - 2.活動と並行した養成、対等な関係性を構築  
→養成期間も無期限、助言より情報交換や時間の共有を重視
- 共通する特徴
- 1.メンタルフレンドに対するニーズ、養成の意義は既存の支援の補完  
→既存の活動、機関では支援が難しいケースに対応
  - 2.二人の世界を作りやすくする、本人の主観を重視した活動を希望  
→新たな関係で生じた体験の価値を重視



図1: 支援方法の特徴を整理した樹形図

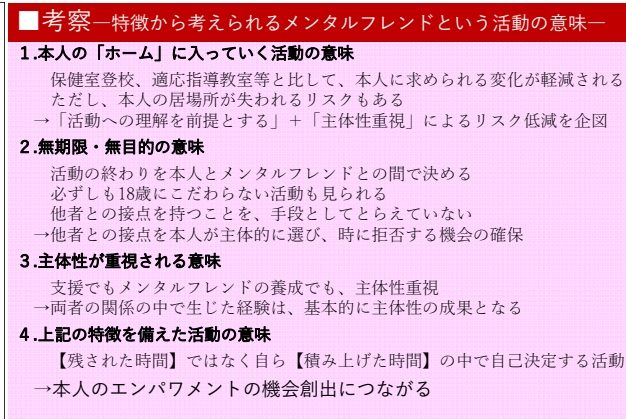


図2: 養成方法の特徴を整理した樹形図